～エピローグ～

三月三十日

お母さんの　においみたいな
ぼくらの　ふるさと

シンジョーは、今日、五回目の校歌を歌っている。

午前中は、百周年記念式典で歌った。子どもたちや地域の人たちと、大きな声で歌った。

午後は、教え子の結婚式に招かれ、扇小卒業生とともに歌った。

夜は、扇小学校で共に働いた同僚と共に歌った。同僚だった一人が、映画俳優になり、ハリウッド映画に出演することになったのを祝っての会だった。明日、日本を出発するとのことだ。その二次会で、ライブハウスに立ち寄り、数人でまた歌った。

最終電車に乗ったシンジョーは、いつもならタクシーで自宅に帰るのだが、気分がよかったので、歩いて帰ることにした。

木枯らしが　すごく吹く日も
雨降る時にも

ご機嫌(きげん)なシンジョーは、今日、五回目の校歌を歌いながら、歩いて帰った。

ふとフォンを見ると、今日結婚した教え子からメッセージが届(とど)いていた。

「本日はありがとうございます。今、三次会が終わり、ホテルにつきました。シンジョーさんも、張り切って楽しくがんばって下さい。

大好きな　大好きな　この学校」

シンジョーは、扇小学校を巣立(すだ)ち、またこの大好きな学校で仕事をしていることを、改めて幸せ(しあわ)だと思った。